



(参考資料)

2014年2月4日

米国デュポン社、2013年第4四半期および通期の1株当たり営業利益を公表

デラウェア州ウィルミントン、2014年1月28日 – 米国デュポン社は、1月28日（米国時間）、2013年第4四半期（10月～12月）の1株当たり営業利益は、前年同期の20セントに対し59セントと発表しました。継続事業によるGAAP¹利益は、昨年同期比の400万ドルまたは1株当たりゼロであったのに対し、1億8300万ドルまたは1株当たり19セントでした。第4四半期の業績は、販売量の堅調な伸びや営業利益率の改善、昨年より基本税率が下がったことを反映しています。

デュポンは、2014年通期の1株当たり営業利益を、2013年から8～15%増の4ドル20セント～4ドル45セントと予測しています。また、デュポンは、同社取締役会が50億ドルの新規自社株買プログラムを承認したと発表しました。そのうち20億ドル分は2014年中に実施される予定です。

「当社の好調な第4四半期の業績は、世界経済が徐々に改善しつつある中で、全社を通じて計画の実行が成功したことを反映しています。昨年は、高機能化学事業が大幅に減退したことを除けば、営業利益の2桁増と高い利益率を達成しました。業績改善は、販売量の増加と革新的な新製品の投入、生産性の上昇によるものです」と、エレン・クルマン会長兼最高経営責任者は述べています。

「当社の2013年の業績と戦略は、デュポンを高成長かつ高価値の企業とする計画が進行していることを示しており、高機能化学事業を強力な独立企業として分離するとの決定が正しいことを裏付けています。50億ドルの自社株買戻プログラムは、2014年以降もデュポンの企業価値を高めていく計画に、当社が自信を持っていることの表れなのです」

第4 四半期要約

- 売上高は6%増の77億ドルとなり、販売量は全事業・地域における需要増を反映して9%増を達成しました。
- 営業利益は、大半の事業部門で営業利益率が改善され、昨年同期比の6億1,600万ドルから52%増の9億3,900万ドルとなりました。
- 農業関連事業の営業利益は、中南米諸国における好調な殺虫剤の売上高と種子製品の早期出荷により、前年同期の7,700万ドルの季節的な営業損失に対し、8,800万ドルとなりました。
- 電子・情報事業、安全・防護事業、ニュートリション&ヘルス事業では、それぞれ116%、57%、40%の営業利益増を記録しました。



要約

- 2013年通期の1株当たり営業利益は、前年同期の3ドル77セントから3%増の3ドル88セントとなりました。売上高は3%増の357億ドルとなり、販売量も5%増を達成しました。継続事業による1株当たりのGAAP利益は、昨年の2ドル59セントに対し、3ドル4セントになりました。
- 事業部門の営業利益は、主に高機能化学事業における8億ドルの減少（1株当たり66セント）により、昨年の63億ドルから減少して59億ドルとなりました。両年の高機能化学事業を除く事業部門の営業利益は、11%増の4億9,000万ドルとなっています。
- 農業関連事業の営業利益は、13%の販売量増加により16%となり、種子製品のコスト増と為替の影響により一部相殺されました。売上増は、主に、世界的な種子製品価格と販売量の上昇、殺虫剤・殺菌剤の販売量の増加、Pannar Seed (Pty) Ltd.の持株増加によるものです。
- フリーキャッシュフローは、前年の31億ドルに対し、13億ドルでした。この減少は、主に、高機能化学事業における利益の低減、農業関連事業の運用資金の変更、2013年に事業売却したパフォーマンスコーティングスの利益不在によるものです。
- 未積立年金および年金以外の従業員給付にかかわる負債は、2013年12月31日時点で、49億ドル減の84億ドルとなりました。



グローバル・デュポンの連結純売上高(第4四半期)

2013年第4四半期純売上高は、昨年から6%増の77億ドルとなりました。この増加は販売量の9%増を反映し、現地販売価格の2%減と為替差損1%により一部相殺されています。2013年第4四半期の地域別売上高および対前年同期増減率については以下のとおりです。

<事業部門の地域別合計売上高>

	事業部門合計売上高		要因別増減率(%)			
	2013年第4四半期 (単位:100万ドル)	対前年同比 増減率(%)	現地価格	為替の影響	販売量	事業ポートフォリオ /その他
米国、カナダ	2,648	4	(3)	-	8	(1)
EMEA*	1,757	11	(1)	3	6	3
アジア太平洋	1,987	2	(5)	(4)	11	-
中南米	1,355	8	-	(4)	12	-
連結売上高	7,747	6	(2)	(1)	9	-

* EMEA=ヨーロッパ、中東、アフリカ

事業部門の実績(第4四半期)

以下の表は、2013年第4四半期の事業部門別の売上高および対前年同期比増減率、ならびに特別項目を除いた第4四半期の税引前営業利益を示したものです。

	事業部門別売上高*		要因別増減率(%)		
	2013年第4四半期 (単位:100万ドル)	対前年同比 増減率(%)	米ドル建て 価格	販売量	事業ポートフォリオ /その他
農業関連事業	1,806	18	-	14	4
電子・情報事業	642	3	(14)	17	-
インダストリアルパイ オサイエンス事業	326	9	-	9	-
ニュートリション&ヘ ルス事業	872	2	2	2	(2)
高機能化学事業	1,616	2	(10)	12	-
高機能材料事業	1,576	3	(2)	6	(1)
安全・防護事業	975	1	-	1	-
その他	1	nm			
事業別売上高合計	7,814				
振替消去	(67)				
連結純売上高	7,747				

* 事業部門別売上高には部門間の取引が含まれます。



特別項目を除いた事業部門別の税引前営業利益 * (単位:100 万ドル)	2013年 第4 四半期	2012年 第4 四半期	2012年第4 四半期からの増減	
			(\$)	(%)
農業関連事業	88	(77)	165	214%
電子・情報事業	93	43	50	116%
インダストリアルバイオサイ エンス事業	40	41	(1)	-2%
ニュートリション&ヘルス事 業	81	58	23	40%
高機能化学事業	229	236	(7)	-3%
高機能材料事業	295	273	22	8%
安全・防護事業	209	133	76	57%
その他	(101)	(100)	(1)	nm
	934	607	327	54%
医薬品事業	5	9	(4)	-44%
事業別営業利益合計 ⁽¹⁾	939	616	323	52%
営業経費	(191)	(215)	24	nm
支払利息	(108)	(117)	9	nm
税引前および為替差損益調 整前営業利益	640	284	356	125%
営業収益納税充当金 (為替 差損益に対する税金を除 く)	(43)	(61)	18	nm
税引後純為替差益 (差損) ⁽²⁾	(39)	(29)	(10)	nm
被支配株主持分による当期 純利益	-	(1)	1	nm
営業利益	\$ 558	\$ 193	\$ 365	189%
1株当たり営業利益	\$ 0.59	\$ 0.20	\$ 0.39	195%



グローバル・デュポンの連結純売上高（通期）

2013年通期の純売上高は、昨年から3%増の357億ドルとなりました。この増加は、販売量の5%増を反映したのですが、地域販売価格の1%減と為替差損1%により一部相殺されています。2013年通期の地域別売上高および対前年同期増減率については以下のとおりです。

＜事業部門の地域別合計売上高＞

	事業部門合計売上高		要因別増減率(%)			
	2013年通期 (単位:100万ドル)	対前年同比 増減率(%)	現地価格	為替の影響	販売量	事業ポートフォリオ /その他
米国、カナダ	14,788	4	1	-	3	-
EMEA*	8,379	4	(2)	1	4	1
アジア太平洋	7,775	(3)	(6)	(3)	6	-
中南米	4,792	6	-	(3)	9	-
連結売上高	35,734	3	(1)	(1)	5	-

* EMEA=ヨーロッパ、中東、アフリカ

事業部門の実績(通期)

以下の表は、2013年通期の事業部門別の売上高および前年比増減率、ならびに特別項目を除いた税引前営業利益を示したものです。

	事業部門別売上高*		要因別増減率(%)		
	2013年度通期 (単位:100万ドル)	対前年同比 増減率(%)	米ドル建て 価格	販売量	事業ポートフォリオ /その他
農業関連事業	11,739	13	5	7	1
電子・情報事業	2,549	(6)	(8)	2	-
インダストリアルバイ オサイエンス事業	1,224	4	2	2	-
ニュートリション&ヘル ス事業	3,473	1	3	-	(2)
高機能化学事業	6,703	(7)	(12)	5	-
高機能材料事業	6,468	-	(3)	4	(1)
安全・防護事業	3,884	2	(1)	3	-
その他	6	nm			
事業部門別売上高合 計	36,046				
振替消去	(312)				
連結純売上高	35,734				

* 事業部門別売上高には部門間の取引が含まれます。



特別項目を除いた事業部門別の税引前営業利益 * (単位:100 万ドル)	2013年 通期	2012年 通期	2012 年からの増減	
			(\$)	(%)
農業関連事業	2,483	2,138	345	16%
電子・情報事業	334	259	75	29%
インダストリアルバイオサイ エンス事業	169	162	7	4%
ニュートリション&ヘルス事 業	299	319	(20)	-6%
高機能化学事業	998	1814	(816)	-45%
高機能材料事業	1,297	1,225	72	6%
安全・防護事業	690	620	70	11%
その他	(377)	(348)	(29)	nm
	5,893	6,189	(296)	-5%
医薬品事業	32	62	(30)	-48%
事業部門別営業利益合計 ⁽¹⁾	5,925	6,251	(326)	-5%
営業経費	(762)	(864)	102	nm
支払利息	(448)	(464)	16	nm
税引前および為替差損益調 整前営業利益	4,715	4,923	(208)	-4%
営業収益納税充当金 (為替 差損益に対する税金を除 く)	(983)	(1,190)	207	nm
税引後純為替差損益 ⁽²⁾	(86)	(142)	56	nm
被支配株主持分による当期 純利益	(14)	(25)	11	nm
営業利益	\$ 3,632	\$ 3,566	\$ 66	2%
1株当たり営業利益	\$ 3.88	\$ 3.77	\$ 0.11	3%



以下は、前年同期と比較した事業部門別の2013年第4四半期の業績に関する概要です(2013年第4四半期以外の業績は別途注記)。販売価格に関する記述については、為替の影響も含め、すべて米ドル建てで示されています。

農業関連事業 -2013年第4四半期の営業利益は、前年同期の7,700万ドルの季節的な営業損失に対し、8,800万ドルとなりました。これは、中南米諸国における殺虫剤の好調な売上高と、最近実施した投資により可能となった、サフリーニャと呼ばれるブラジルのトウモロコシの裏作シーズンに合わせた種子製品の早期出荷、北米農家に種子製品を早期かつ直接販売したことによるものですが、為替差損により一部相殺されました。種子製品を早いタイミングで出荷した結果、2014年第1四半期ではなく、早くも2013年第4四半期に約1億ドルの営業利益が達成されました。

2013年通期営業利益25億ドルは、売上高13%増により16%増となりましたが、種子製品のコスト増と為替差損により一部相殺されました。売上高の増加は、主に、世界的な種子製品価格と販売量の上昇、殺虫剤・殺菌剤の販売量の増加、Pannar社の持株増加によるものです。

電子・情報事業 -2013年第4四半期営業利益は、販売量の増加とプラント稼働率の改善により、5,000万ドル増の9,300万ドルとなりました。主に太陽電池市場における販売量増加は、需要増と市場シェアの伸びを反映していますが、金属価格低下の影響による販売価格の低下により一部相殺されました。

インダストリアルバイオサイエンス事業 -2013年第4四半期営業利益の4,000万ドルは、カーペット・衣料品用のソロナ®ポリマーおよびエタノール生産用の酵素の需要増に対して基本的に横ばいでしたが、コスト増により相殺されました。

ニュートリション&ヘルス事業 -2013年第4四半期営業利益は、前年同期比2,300万ドル増の8,100万ドルとなりましたが、これは価格上昇およびプロテイン飲料、プロバイオティクス製品、カルチャーの需要増によるものです。営業利益率は、価格上昇、製品構成力の向上、および高い生産性により、成長投資を相殺しても尚、2ポイント以上改善しました。

高機能化学事業 -2013年第4四半期営業利益は、酸化チタンおよび冷却剤の価格減少と、原料コストの増加により、両事業における販売量の増加とプラント稼働率の改善による相殺をもっても尚、3%減の2億2,900万ドルとなりました。酸化チタンの販売量は2012年第4四半期から18%増となりました。

高機能材料事業 -2013年第4四半期営業利益は、梱包材料、自動車、産業市場の需要増による販売量の増加を反映して、販売価格の低下や原料コスト増により一部相殺されたものの、2,200万ドル増の2億9,500万ドルとなりました。



安全・防護事業 – 2013年第4四半期営業利益は、主に、継続的な生産性の改善と、プラント稼働率の改善、産業市場の販売量の増加により、7,600万ドル増の2億900万ドルとなりました。

各事業部門の業績に関するその他の情報につきましては、米国本社ウェブサイトwww.dupont.com DuPont Investor Centerのページをご覧ください。

展望

当社は、2014年通期の1株当たり営業利益を、ポートフォリオの変更による2%減も含め、前年比で8~15%増の4ドル20セント~4ドル45セント、2014年通期の売上高4%増の370億ドルと予測しています。この展望には、世界工業生産の継続的改善、農業製品コストの低下、為替における若干のドル高に対する期待が反映されています。また、この展望では、従来では2014年第四1半期に計上される約9セントの農業事業部の1株当たり営業利益が、早期出荷により2013年第4四半期に既に計上されたことも加味しています。

非GAAP 指標の採用

当社の経営陣は、特定の非GAAP 指標が当社の継続的な運営実績に関する見通しを提供してくれるため、投資家にとって有意義であると考えています。しかし、この指標は、「一般に公正妥当と認められた会計原則(GAAP)」では認められておらず、業績を測る手段としてGAAP の代替とはみなすことはできません。非GAAP ベースとGAAP ベース間の調整については、添付資料A、CおよびDをご参照ください。

デュポンは1802年の創業以来、世界最高水準の科学技術を基盤に、革新的な製品や素材、サービスを提案しています。お客様や政府、NGO、オピニオンリーダーとの連携を通じ、世界中の人々に十分に安全な食糧を提供すること、化石燃料依存からの脱却、人と環境の保護など、世界的な課題へのソリューションを見出すご提案が出来ると思っております。デュポンの取り組みに関する詳細は、<http://www.dupont.co.jp>(米国サイト:<http://www.dupont.com>)をご覧ください。



将来の見通しに関する記述

このニュースリリースには、「計画」、「予想」、「意思」、「考え」、「意図」、「予測」、「展望」等の表現や同様の意味を示す他の表現を使用することにより識別されうる将来の見通しに関する記述が含まれています。当社の成長戦略、製品開発、規制当局の認可、マーケットポジション、企業買収による予想利益、訴訟および環境問題などの不測の事態の結果、支出、業績への言及はすべて、将来の見通しに関する記述です。将来の見通しに関する記述は将来の業績を保証するものではなく、実現しない可能性もある将来の出来事に関する想定や予想に基づいています。また、将来の見通しに関する記述は、リスクや不確定要素も包含するものであり、その多くが当社の支配の範囲を超えるものです。当社の実際の業績が、これらの将来の見通しに関する記述における予測と著しく異なる原因となる重要な要素には、エネルギーおよび原料価格の変動、新製品の開発と販売および製品のライフサイクルの最適管理を怠ること、重大な訴訟および環境問題、適切な工程安全管理および製品管理を怠ること、法律や規制の改正および政情の変化、インフレ、利率や為替レートといった世界規模の経済状況や資本市場の状況、取引や供給の途絶、破壊活動、テロまたは戦争、気象事象や天災などの安全上の脅威、当社の知的財産権を保護し行使する能力、買収企業の統合や不採算あるいは非戦略的な資産や事業の分割、並びに計画中の高機能化学事業のスピンオフにより期待される利益の実現能力を含む当該スピンオフの完了などが含まれます。当社は、今後の展開や新たな情報が生じた場合にも、将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。

#

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

デュポン株式会社 広報部:持田

電話(03)5521-8484